

家島彦一教授 — 略年譜と主な研究業績

Professor Hikoichi YAJIMA: A Record and Academic Works

(1) 略年譜

- | | | | |
|----------|-------------------------------|---------|----------------------------|
| 1939年10月 | 東京に生まれる | | カ言語文化研究所助教授昇任 |
| 1962年3月 | 慶応義塾大学文学部史学科卒業 | 1987年2月 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授昇任 |
| 1964年3月 | 慶応義塾大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了 | 2002年3月 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所定年退官 |
| 1966年3月 | 慶応義塾大学大学院文学研究科史学専攻博士課程2年修了後中退 | | |
| 1966年4月 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手として入所 | | |
| 1974年9月 | 文学博士号取得(慶応義塾大学) | | |
| 1975年1月 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授昇任 | | |

他大学等への併任・兼任

青山学院大学, 茨城大学, 宇都宮大学(併任), 大阪大学, 大阪外国語大学, 九州大学, 京都大学, 慶応義塾大学, 中央大学, 上智大学, 東京大学, 東京大学駒場, 早稲田大学

(2) 主な研究業績

1964年(昭和39年)

「宋代の毗喏耶国と地中海の珊瑚」『オリエント』No.7-1, pp.51-62, 日本オリエント学会, 1964, 3.

日本書院, 1967, 6.

「Ibn Fadlān のヴォルガ・ブルガール旅行記について」『史学』No.40-2/3, pp.331-350, 慶応義塾大学三田史学会, 1967, 11.

1965年(昭和40年)

「南アラビアの東方貿易港について—賈耽の道里記にみるインド洋西岸航路—」『東方学』No.31, pp.133-149, 東方学会, 1965, 11.

1968年(昭和43年)

「イスラーム史料による鄭和の遠征」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.1, pp.126-131, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1968, 2.

「イスラーム商人の活躍」『イスラーム世界』(世界歴史シリーズ9) pp.102-110, 世界文化社, 1968, 10.

1966年(昭和41年)

「イスラーム史料中に見る鄭和遠征記事について」『史学』No.38-4, pp.95-101, 慶応義塾大学三田史学会, 1966, 4.

1969年(昭和44年)

『イブン・ファドラーンのヴォルガ・ブルガール旅行記・訳注』(アジア・アフリカ言語文化叢書2) xii+91pp., アジア・アフリカ言語文化研究所, 1969, 3.

1967年(昭和42年)

「唐末期における中国・大食間のインド洋通商路」『歴史教育』No.15-5/6, pp.56-62,

「インド洋通商史に関する一考察—12世紀の
船商 Rāmasht について—」『オリエント』
No.10-1/2, pp.193-212, 日本オリエント
学会, 1969, 6.

1971年(昭和46年)

「海外研究雑感—アラブ諸国を旅して—」『通
信』No.14, pp.8-13, アジア・アフリカ
言語文化研究所, 1971, 12.

1972年(昭和47年)

「インド洋通商とイエメン—南アラビアの
Sirāf 居留地—」『アジア・アフリカ言語
文化研究』No.5, pp.119-144, アジア・
アフリカ言語文化研究所, 1972, 8.

1974年(昭和49年)

「イエメン・ラスール朝史に関する新写本」
『アジア・アフリカ言語文化研究』No.7,
pp.165-182, アジア・アフリカ言語文化
研究所, 1974, 1.

「15世紀におけるインド洋通商史の一齣—鄭
和遠征分隊のイエメン訪問について—」
『アジア・アフリカ言語文化研究』No.8,
pp.137-155, アジア・アフリカ言語文化
研究所, 1974, 9.

『イエメン・ラスール朝史に関する新写本と
その史料価値の分析』博士論文(慶応義
塾大学提出受理), 1974, 9.

「イエメン・ラスール朝史に関する新写本・
補遺」『アジア・アフリカ言語文化研究』
No.8, pp.157-160, アジア・アフリカ言
語文化研究所, 1974, 9.

A Chronicle of the Rasūlid Dynasty of Yemen,
Arabic text, notes & indices, アジア・
アフリカ言語文化研究所, 1974, 9.

1975年(昭和50年)

「イエメン・ラスール朝時代の商人の一類
型—qādi Amin al-Dīn Muflīh al-Turkiの
場合—」『史学』No.46-3, pp.81-98, 慶

応義塾大学三田史学会, 1975, 2.

1976年(昭和51年)

The Arab Dhow Trade in the Indian Ocean,
Studia Culturae Islamicae, No. 3, 77pp.,
アジア・アフリカ言語文化研究所, 1976,
3.

「モンゴル帝国時代のインド洋貿易—特に
Kish 商人の貿易活動をめぐって—」『東
洋学報』No.57-3/4, pp.1-40, 財団法人
東洋文庫, 1976, 3.

「東西交渉よりみた紅海とバーバルマンデ
ブ—とくに15世紀前半の情勢を中心とし
ての考察—」『アラビア研究論叢—民族と
文化—』pp.225-252, 日本サウディアラ
ビア協会, 日本クウェイト協会編, 1976,
4.

1977年(昭和52年)

“The Arab Gulf in the 11th and 12th Cen-
turies”, *Al-Khalij al-'Arabī (The Arab Gulf,*
An Academic Journal dealing with Affaires of
the Arab Gulf and the Arabian Peninsula),
No.8, pp.9-21, University of Basra, Basra,
1977, 2.

「アラブ古代型縫合船 Sanbūk Zafāriについ
て」『アジア・アフリカ言語文化研究』
No.13, pp.181-204, アジア・アフリカ
言語文化研究所, 1977, 3.

「書評：藤本勝次訳注『シナ・インド物語』」
『史学雑誌』第86編第7号, pp.106-108,
史學會, 1977, 7.

「クウェイト史の謎—砂漠民から海上民への
転換—」*Kuwait-Japan Society, Bulletin,*
No.71, pp.1-3, 日本クウェイト協会,
1977, 8.

“Maritime Activities of the Arab Gulf People
and the Indian Ocean World in the 11th
and 12th Centuries”『アジア・アフリカ
言語文化研究』No.14, pp.195-208, ア
ジア・アフリカ言語文化研究所, 1977, 12.

1978年（昭和53年）

「イスラム勃興期のアラビア半島をめぐる国際情勢」『月刊シルクロード』No.4-7, pp.55, 株式会社シルクロード, 1978, 8.

1979年（昭和54年）

「インド洋世界とダウ」『季刊民族学』No.7, pp.18-23, 国立民族学博物館監修, 民族学振興会, 1979, 1.

『インド洋西海域における地域間交流の構造と機能—ダウ調査報告2—』(Studia Culturae Islamicae, No.9), 250pp., アジア・アフリカ言語文化研究所, 1979, 3.

「イスラム史の展開と海洋」『月刊シルクロード』No.5-7, pp.61-67, 株式会社シルクロード, 1979, 8.

1980年（昭和55年）

「マムルーク朝の対外貿易政策の諸相—セイロン王 Bhūvanaikabāhu I とマムルーク朝スルタン al-Manṣūr との通商関係をめぐって—」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.20, pp.1-105, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1980, 12.

「東西交渉上のアル・フスタート」『アル・フスタート』(中近東文化センター研究会報告1), pp.79-104, 中近東文化センター, 1980, 12.

1981年（昭和56年）

「インド航路の鍵を与えたのは誰か—ポルトガル来航前後のインド洋—」*Kuwait-Japan Society, Bulletin*, No.95, pp.9-12, 日本クウェイト協会, 1981, 8.

1982年（昭和57年）

Hasan Tāj al-Dīn's The Islamic History of the Maldive Islands, Vol. 1: Arabic text (Studia Culturae Islamicae, No. 16), 265pp., アジア・アフリカ言語文化研究所, 1982, 3.
「国際商業ルートの支配と推移」『シンポジウ

ム東西交渉史におけるムスリム商業』(中近東文化センター研究会報告3), pp.25-39, 中近東文化センター, 1982, 7.

1983年（昭和58年）

「書評：ジャン・ルージェ著, 坂井傳六訳『古代の船と航海』」『東西交渉』, 第2巻第1号, pp.46-47, 井草出版, 1983, 3.

「紅海とイエメン地域—その経済・文化交流上の位置と歴史的役割をめぐって—」『南北イエメンを中心とする紅海情勢の研究』pp.4-21, 中東調査会, 1983, 3.

「マグリブ人によるメッカ巡礼記 *al-Rihla* の史料性格をめぐって」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.25, pp.194-216, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1983, 3.

「イエメン・ラスール朝の崩壊とスルタン・マスウードのインド亡命」『内陸アジア・西アジアの社会と文化』pp.601-620, 山川出版社, 1983, 6.

「前嶋信次先生を悼む」『東西交渉』, 第2巻第2号, pp.29-31, 井草出版, 1983, 8.

「第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議第7部会報告：『海上ルート』における問題提起と今後の研究課題」『通信』No.49, pp.35-38, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1983, 11.

1984年（昭和59年）

Hasan Tāj al-Dīn's The Islamic History of the Maldive Islands, Vol. 2: Annotations & Indices (Studia Culturae Islamicae, No. 22), 204pp., アジア・アフリカ言語文化研究所, 1984, 3.

「米の道」『海外学術調査コロキヤム「米」の起源』pp.45-48, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1984, 3.

“Subsection Report: East-West Cultural & Economic Relations”, *Proceedings of the 31th International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa (CHISHAAN)*,

- Vol.1, pp.393-395, Tokyo, 1984, 8.
- “An Arabic Manuscript on the History of Maldive Islands”, *Proceedings of the 31th International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa (CHISHAAN)*, Vol.1, pp.421-422, Tokyo, 1984, 8.
- 「チュニジア・ガーベス湾をめぐる漁撈文化—地中海史の視点から—」『イスラム世界の人びと—海上民』編著, pp.201-240, 東洋経済新報社, 1984, 10.

1985年(昭和60年)

- 「Ibn Battūta のマルディヴ群島訪問記事めぐって」『三上次男博士喜寿記念論文集(歴史編)』pp.390-404, 平凡社, 1985, 3.
- 「マルディヴ群島海民のメッカ巡礼」『西と東と—前嶋信次先生追悼論文集』pp.211-230, 汲古書院, 1985, 6.
- 「民族学のタテヨコ: 舟—西アジア」『季刊民族学』No.33, pp.55-56, 国立民族学博物館監修, 民族学振興会, 1985, 8.
- 「史料としてのアラビアンナイト」『アラビアンナイト』第13巻, pp.391-393, 平凡社, 1985, 8.

1986年(昭和61年)

- 「モンスーン航海の道—インド洋をかける木造帆船ダウの歴史—」『Sumisho News, 住商ニュース』pp.47-53, 住友商事株式会社, 1986, 1.
- 「ナイル溪谷と紅海を結ぶ国際貿易ルート—とくに Qūṣ ~ ‘Aydhab ルートをめぐって—」『イスラム世界』Nos.25/26, pp.1-25, 日本イスラム協会, 1986, 2.
- 『アルワード島—シリア海岸の海上文化—』(*Studia Culturae Islamicae*, No. 31), 75pp., アジア・アフリカ言語文化研究所, 1986, 2.

1987年(昭和62年)

- 「インド洋におけるシーラーフ系商人の交易

ネットワークと物品の流通」『深井晋司博士追悼: シルクロード美術論集』pp.199-224, 吉川弘文館, 1987, 2.

- 「一握りのホンムス豆」(民族の心), 『通信』No.60, p.7, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1987, 7.

1988年(昭和63年)

- 「座談会: 海のシルクロード①ロマンと冒険の交易船を追う」『目の眼』No.136, pp.10-28, 里文出版, 1988, 1.
- 『イラン・ザグロス山脈越えのキャラバン・ルート』(*Studia Culturae Islamicae*, No. 36), 199pp., アジア・アフリカ言語文化研究所, 1988, 3.
- 「日本中東学会第3回大会: 学会消息」『通信』No.63, pp.36-39, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1988, 8.
- 「都市のネットワーク論をめぐって—インド洋西海域におけるダウ船調査に基づく—」科学研究費補助金『重点領域研究: イスラムの都市性』研究報告編第8号, 1988, 11.

- “An Arabic Manuscript on the History of Maldive Islands”, *Cultural and Economic Relations between East and West — Sea Routes —*, pp.71-81, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1988, 12.

1989年(平成元年)

- 「インド洋海上史論の試み」pp.97-143, 『地域研究と第三世界』慶応義塾大学地域研究センター編, 1989, 3.
- 「法隆寺伝来の刻銘入り香木をめぐる問題—沈香と白檀の産地と7・8世紀のインド洋貿易」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.37, pp.123-142, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1989, 3.
- 「市場(sūq/bāzār)研究の展望と方法論的提言」『イスラム圏における異文化接触のメカニズム—市の比較研究—』No.1,

- pp.1-19, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1989, 3.
- 「ピレンヌ・テーゼ再考—ムスリム勢力の地中海進出とその影響—」坂口昂吉編著『地中海世界と宗教』pp.97-117, 慶応義塾大学地域研究センター編, 1989, 3.
- 「港市シーラーフ:ペルシャ湾の中継貿易港」『海の交易路』(週刊朝日百科:世界の歴史 No.39), pp.228-231, 朝日新聞社, 1989, 8.
- 「紅海の交易都市サワーキン」『海の交易路』(週刊朝日百科:世界の歴史 No.39), pp.240-241, 朝日新聞社, 1989, 8.
- 「紅海の国際貿易港 'Aydhab の廃港年次をめぐって」『東西海上交流史研究』No.1, pp.167-197, 中近東文化センター, 1989, 12.

1990年 (平成 2年)

- 「ダウ船とインド洋海域世界」『生活の技術・生産の技術』(シリーズ世界史への問い 2) pp.105-128, 岩波書店, 1990, 2.
- 「南海産香木・薬物類が運ばれた道」『文明のクロスロード Museum Kyushu』No.34, pp.3-8, 九州歴史資料館, 太宰府市, 1990, 6.

1991年 (平成 3年)

- 「東アフリカ・スワヒリ文化圏の形成過程に関する諸問題」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.41, pp.101-124, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1991, 3.
- 『イスラム世界の成立と国際商業—国際商業ネットワークの変動を中心に』pp.xvi+443+10, 岩波書店, 1991, 4.
- 「インド洋世界とダウ船」『都市文明イスラム世界:シルクロードから民族紛争まで』pp.58-69, 第5回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編, 1991, 9.

1992年 (平成 4年)

- 「インド洋海域の交易都市ネットワーク」『学術月報』No.565, vol.45/1, pp.40-47, 日本学術振興会, 1992, 1.
- 「広域旅行記都市情報」板垣雄三・後藤明編『事典イスラムの都市性』pp.65-67, 亜紀書房, 1992, 5.
- 「鄭和大遠征とインド洋世界」pp.208-210, 板垣雄三・後藤明編『事典イスラムの都市性』pp.65-67, 亜紀書房, 1992, 5.
- 「西アジア海上交易 (中国~地中海・アフリカ)」pp.227-232, 板垣雄三・後藤明編『事典イスラムの都市性』pp.65-67, 亜紀書房, 1992, 5.
- 「ムスリム海民による航海安全の信仰—とくに Ibn Battūta にみえるヒズルとイリヤースの信仰—」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.42, pp.117-135, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1992, 9.
- 「チュニジアの定期市」『チュニジア通信』pp.1-9, 日本チュニジア協会, 1992, 12.

1993年 (平成 5年)

- 『海が創る文明—インド洋海域世界の歴史—』461pp.+43pp., 朝日新聞社, 1993, 3.
- 「インド洋海域の交易都市ネットワーク」板垣雄三・後藤明編『イスラムの都市性』(学術新書16), pp.96-112, 日本学術振興会, 1993, 6.
- 「国際交易ネットワーク」鈴木董編著『パクス・イスラミカの世紀』(講談社現代新書:イスラムの世界史), pp.227-259, 講談社, 1993, 10.

1994年 (平成 6年)

- 「イブン・バットゥータ『メッカ巡礼記』の諸写本について」『東西海上交流史研究 (Journal of East-West Relations)』, No.3, pp.115-139, 中近東文化センター, 1994, 1.

- 「インド洋貿易」川北稔編『歴史学事典』第1巻(交換と消費), pp.37-44, 弘文堂, 1994, 3.
- 「人間動態と情報に関する総合的研究—問題提起」『イスラム圏における異文化接触のメカニズム』No.3, pp.3-10, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1994, 3.
- 「チュニジアの定期市サークル」『イスラム圏における異文化接触のメカニズム』No.3, pp.201-223, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1994, 3.
- 「国家・港市・海域世界—イエメン・ラスール朝スルタン・ムザッファルによるズファール遠征の事例から—」『アジア・アフリカ言語文化研究』Nos.46-47, pp.383-407, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1994, 3.
- 「島の魅力—地域連関の視点から—」『重点領域研究』No.6, pp.14-16, 京都大学東南アジア研究センター, 1994, 9.
- 「インド洋世界」『クロニク世界全史』pp.374-375, 講談社, 1994, 11.
- 1995年(平成7年)**
- 「アラビア海を結ぶ三角帆の木造船ダウ」小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』pp.205-212, 春秋社, 1995, 1.
- 「イブン・バットゥータの世界」堀川徹編著『世界に広がるイスラーム』(講座イスラーム世界, 第3巻), pp.193-230, 栄光教育研究所, 悠思社, 1995, 1.
- 「インド洋海域における港の成立とその形態をめぐって」『歴史の中の港・港町Ⅰ—その成立と形態をめぐって』(中近東文化センター研究会報告11), pp.65-99, 中近東文化センター, 1995, 3.
- 「インド洋海域の文化史とアジアの概念を見直す」『通信』No.84, pp.1-9, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1995, 7.
- 「人と物の交流した海のシルクロード: モンスーン航海の道」『季刊アジアフォーラム』No.77, pp.38-43, 財団法人アジアクラブ, 1995, 8.
- 1996年(平成8年)**
- 「インド洋海域世界の観点から」『海からの歴史—ブローデル「地中海」を読む—』pp.125-142, 藤原書店, 1996, 3.
- 「旅と出会い—地域間研究の原点を求めて—」『総合的地域研究』No.12, pp.6-9, 京都大学東南アジア研究センター, 1996, 3.
- 「都市とネットワーク」『東南アジアと中東—地域間研究の視点から—』(重点領域研究「総合的地域研究」成果報告書シリーズ) No.16, pp.15-26, 重点領域研究総括班, 京都大学東南アジア研究センター, 1996, 4.
- 『イブン・バットゥータ: 大旅行記・訳注』第1巻, 418pp., 平凡社, 1996, 6.
- 「中東地域の歴史的広がり」とイスラーム世界意識の形成」『中東研究』No.418, pp.2-12, 中東調査会, 1996, 9.
- 「地域間コミュニケーション」『イスラーム研究ハンドブック』pp.192-199, 栄光教育研究所, 悠思社, 1996, 10.
- “Some Problems on the Formation of the Swahili World and the Indian Ocean Maritime World”, *Essays in Northeast African Studies* (Senri Ethnological Studies, No.43), Shun Sato & Eisei Kurimoto (eds.), pp.319-354, Osaka, 1996, 12.
- 1997年(平成9年)**
- 「アラブ商人」東南アジア研究センター編『東南アジアの生態・環境・風土』pp.89-90, 弘文堂, 1997, 1.
- 『イブン・バットゥータ: 大旅行記・訳注』第2巻, 445pp., 平凡社, 1997, 4.
- 「旅の原点を考える」『通信』No.90, pp.3-9, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1997, 7.

1998年（平成10年）

- 「イスラームは国民国家を超えるか」『大航海』No.20, pp.70-77, 新書館, 1998, 1.
- 「メッカ巡礼の道—ヒト・モノ・文化情報の交流」松本宣郎・山田勝芳編著『移動の世界史』（地域の世界史5）, pp.328-366, 山川出版社, 1998, 3.
- 『イブン・バットゥータ：大旅行記・訳注』第3巻, 456pp., 平凡社, 1998, 3.
- 「イスラーム世界史の叙述に向けて」『中東研究』No.436, pp.33-36, 中東調査会, 1998, 3.
- 「国家と海峡支配」秋道智彌編著『海人の世界』pp.169-193, 同文館, 1998, 3.
- 「インド洋海域のアラブ人」大塚和夫編著『アラブ』pp.253-261, 河出書房新社, 1998, 4.

1999年（平成11年）

- 「都市とネットワーク」高谷好一編著『〈地域間研究〉の試み』（上巻）, pp.141-158, 京都大学出版会, 1999, 1.
- 「インド洋海域世界の歴史—海域ネットワークの成立と変遷—」『FRONT：特集海の道再発見』No.126（No.11-6）, pp.13-16, 財団法人リバーフロント整備センター, 1999, 2.
- 「海域史に関する試論—地中海からインド洋まで—」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.57, pp.281-300, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1999, 3.
- 『イブン・バットゥータ：大旅行記・訳注』第4巻, 475pp., 平凡社, 1999, 9.
- 「イブン・バットゥータ研究の新視点」『史学雑誌』No.108-12, pp.92-94, 史學會, 1999, 12.

2000年（平成12年）

- 「インド洋海域世界における交易と移動」『サ

イアス』No.5-2, p.84, 朝日新聞社, 2000, 1.

- 「ズルク・ブン・シャフリヤール『インド奇談集』に関する新写本」『アジア・アフリカ言語文化研究』No.59, pp.1-30, アジア・アフリカ言語文化研究所, 2000, 3.
- 『イブン・バットゥータ：大旅行記・訳注』第5巻, 449pp., 平凡社, 2000, 8.
- 「イブン・バットゥータ旅行記」樺山紘一編『世界史の旅行記101』pp.37-38, 新書館, 2000, 10.
- 「西から見たアジアの海」浜下武志他編著『海のアジア』第1巻（海のパラダイム）, pp.75-102, 岩波書店, 2000, 11.
- 「モンsoon文化圏という世界」家島彦一編著『海のアジア』第2巻（モンsoon文化圏）序論 pp.iii-xvi, 岩波書店, 2000, 12.

2001年（平成13年）

- 『海外調査報告：イスラーム圏における交通システムの歴史の変容に関する総合的研究』「はしがき」「調査の目的・方法・成果について」「ナイル川渓谷と紅海を結ぶルート調査」「南イラン・ザグロス山脈越えのキャラバン・ルート」「交通システムを解明するための基本史料—ヒジュラ暦682年（1283年）、カイロに到着したセイロン王の使節団が通過したペルシャ湾ルートに関するアラビア語史料」pp.1-174, 2001, 4.
- 『イブン・バットゥータ：大旅行記・訳注』第6巻, 493pp., 平凡社, 2001, 7.
- 「イスラーム・ネットワークの展開」岩波講座『東南アジア史』3, pp.17-43, 岩波書店, 2001, 8.
- 「イスラーム世界全域を旅した男」『週刊朝日百科世界の文学』No.118, pp.236-237, 朝日新聞社, 2001, 10.